

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:2023年2月1日

事業所名:むくっこ

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7			重症児、医療的ケア児の受入に対して環境整備はしているが、設備のハード面では子どもの身長にあわせ水道蛇口の高さ、子ども用トイレなど設置し自立を促す環境に配慮しています。	事業所の移転を本年度7月に行いました。環境に十分に慣れていないこともあり改善があればその都度検討する。
	2 職員の配置数は適切である	6	1		職員配置については配置基準は遵守され支援に支障のないように児童部職員で加配職員や兼務職員で対応しています。	放課後デイサービスの夏休みなどの長期休み時期には兼務職員の配置が難しいことがあり調整したり、活動の企画段階で地域ボランティア協力や内容の工夫をする。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7			この度、事業所の移転にともない活動の目的別に応じた床の色を変えたり、遊具置き場や環境のバリアフリー化、構造化を工夫しています。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7			感染予防として、子ども用の手洗い場や子ども用水洗便器など新たに設置した。また日々業務としておもちゃの消毒を心掛けています。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	2		定例でケース会議を行い、支援の目的や内容の確認しています。コロナ禍で医師、専門家の意見交換会、勉強会などが充分に出来ないが感染予防対策に努めZoom会議など工夫して開催したい。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	1		評価表を受けて保護者への話題づくり子育てなど話し、母親への寄り添いの関係づくりをしています。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	1		ホームページ公開しています。	これからも評価者のご意見などを支援の向上に努めていきます。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	3	3	第三者評価は行っていないが、外部講師や専門職の導入し意見交換をしている。	
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7			福祉以外の内容(医療、地域活動に関する研修)についても、定例で内部勉強会を開催しています。	
適切な 支援の 提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7			支援計画については、多職種職員を含め職員へ周知を図っています。	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7				重症心身障害児の特性の項目が必須のため、発達状態を確認するツールを活用しています。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4	3			家族、母親の子育て、兄弟児などの生活課題について、当事者と一緒に検討します。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7			ケース会議等で個々に合った対応などを確認し、活動では職員同士声掛け合い確認している。	支援計画の進捗を含めて、ケース会議等で支援計画を確認し共有しています。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	7				
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	1			
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	6	1			保護者へ療育の解説や情報の提供をします。親の気づきに傾聴し計画に盛り込みます。
17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7			職員間でアセスメントの共有し状況などの変化に対して支援内容を確認している。		

	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	3		複写紙の連絡帳のため記録等で共有するように努めている 職員が時差出勤のためそろっての打合せが難しいが、出勤時に情報共有に努めケース会議などで再確認をしている。	発達支援で新たな成長(芽生え反応)が見られた時は、職員同士の情報共有をしています。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7			毎日の連絡帳を複写式にして内容などの情報を一括している。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6	1		定期的にモニタリングを行い、担当者会議や相談支援などと連携を図り、支援計画の見直しをしています。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7				
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	2	3	1		必要に応じて関係機関と連携、ネットワーク作りをしています。その全体的な動きについて職員への情報提供する。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	5	2		コロナ禍であるが関係機関に対しての情報の収集に心掛けている。県西部医療的ケア児支援センターと密接な関係と連携を行っています。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	6	1		重症心身障害児を中心とする事業所のため、医療及び主治医等の関係機関と情報共有を図っています。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	2			
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	1		入学一年前の利用児については、定例で支援計画に組み込み、家族や進路先と情報共有しています。本年度は年長組の在籍がないため行っていません。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	4			
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		1	6	コロナ禍で相手の受入やこちらからの参加することが難しい。コロナ前は行っていました。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	4	1	2	自立支援協議会の関係する部会等に参加しています。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	1		連絡帳、直接送迎時に手短かに今日の様子や成長している姿を伝えるようにしている。	支援計画の説明、評価の時に保護者との面談をしている。
保護者への説明責任	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4	3			子育てについて、日頃から話ができる関係づくりと、保護者同士の横の関係づくりができる環境を設定していきます。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7				インフォームドコンセント(説明と同意)を心がけ、丁寧な説明が出来るように職員に周知していきます。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7				
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7			適時におこなっています。子育ての悩みや相談がしやすい環境づくりに心がけ、インフォーマルな支援に対しても寄り添いながら進めています。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	2	3	保護者会の開催はないが保護者同士の連携サポートは行っています。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7				迅速な対応に心がけ、保護者からの声(相談)に対しても、家族背景や環境の変化など冰山モデルの観察をおこない総合的なアプローチをおこなっています。

等	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7			毎月の会報の発行をしている。母子通園、送迎時などで何気ない日々の日常の会話をとおして情報発信している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7			個人情報について、取扱の同意を交わしているが、連携機関との情報共有や会報などの写真提供などはその都度確認をします。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7			保護者への伝え方や内容について、わかりやすく心がけている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	2	1	地域ボランティアで絵本などの読み聞かせなどを行っています。秋の「芋掘り」行事は地域の方の畑でご招待頂いています。	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7				コロナ感染対策及び感染発症時などは一定のマニュアルで職員共有している。BCP作成を検討中です。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7			避難訓練は定例で行われています。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7				新規・変更情報については、フェースシートへの追記、更新をしていきます。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	1		アレルギーについては、保護者から詳しく聴取するとともに医療、栄養士、職員などと情報共有している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7			発生日の夕会に報告をおこない、定例の職員会議、主任会議等で改めて検証・報告をしている。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7			虐待に関連する研修については、外部・内部の研修をおこなっています。職員間で毎月の振り返りを行っている。	人権に対するテーマ、支援の質の向上するための研修も計画的におこない、引き続き虐待防止の意識を深めていきます。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7			契約時や状況によって身体拘束を行う場合は、事前に保護者、職員と状況説明などをおこない同意のもとにおこなっている。	本人の意思を大切に捉え、合理的配慮について保護者、職員で共に検討しより良い環境づくりに努めます。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

自己評価表について、「はい」「いいえ」の二者択一でなく、二つ以上の質問項目などで状況や環境変化等で変わる場合などは「どちらともいえない」の欄に入れた。